地域の力を学校へ
コミュニティ・スクール

市内の小中学校で、保護者と学校、地域が一体となって充実した学びの場をつくる、コミュニティ・スクール（以下CS）の取り組みが始まっています。今回の特集では、モデル校に指定されている相川小、戸田小、相川中学校の活動を取材。学力や教育力の向上はもちろん、地域に交流の輪を広げるCSの取り組みを紹介します。

問教育総務課☎225-2600

保護者ボランティアが、個々の作業ペースに合わせてミシンの扱い方を教える

相川小学校で下校の付き添いをする見守り隊

情報交換をしながら花壇を手入れする「相川小おたすけ隊」

「ミシンがうまく使えないよ」「ここの縫い方が分からない」。相川小の家庭科室で、ナップサック作りに苦心する子どもが戸惑いの声を上げています。「一緒にやってみようか」。子どもたちに優しく寄り添うのは保護者や地域の人たち。授業補佐や学校の環境整備に参加し、地域ぐるみで学校づくりに携わっています。

三者が学校運営に参加

CSとは、このように学校の運営に保護者や地域住民などが参加する仕組みです。学校の運営方針などを話し合う学校運営協議会で、それぞれの立場から意見を出し合い、必要な支援を検討・実行しています（右下欄参照）。日本では平成16年に開始。今では国内で約2800校がCSに指定され、その取り組みは大きな広がりを見せています。

市内では相川小、戸田小、相川中学校の3校が26年にCSの指定を受けました。各校では保護者や地域住民が、授業での教師の補佐や学校施設の補修・手入れ、登下校時の見守り、学校行事の運営などに参加しています。「さまざまな意見を持つ人が集まり、授業への関わり方や方針などの議論を何度も重ねた。以前より子ども一人一人の学習をきめ細かくフォローできるようになった」と話すのは相川小学校の校長・中村明子さん。「花壇に季節の花が植えられるなど、環境の整備も行き届き、ありがたい」と笑顔を見せます。

地域の力で学びを充実

「授業の補佐に参加して、子どもたちの成長を感じられた時がうれしい。前向きに取り組む生き生きとした姿に、私も力をもらっています」と話すのは、「戸田小サポート隊」の竹花保代（やすよ）さん（48・上落合）。自分の子どもが通う学校の様子を知りたいという思いから隊に加わり、今では書道や英会話、鍵盤ハーモニカなど5科目ものサポートに携わっています。戸田小の堀口凌（はけくりりょう）さん（6年）は「分からないことがあっても、みんなの前では先生に聞きにくいこともあるので、サポート隊の人が近くにいてくれると安心」と喜びます。

地域の力は学びの場の環境づくりでも大きな力を発揮。相川小では「おたすけ隊」などの支援チームが、学校の花壇の手入れや校内の草刈り、美化清掃、下校時の見守り、校舎の補修などに携わり、子どもたちが学習に打ち込める環境や、安心して生活できる環境の整備に取り組んでいます。

掘り方を教えてもらい、焼き芋にするイモを掘る中学生

書道を教える竹花さん（右）

こうした多岐にわたるサポートは、科目や活動ごとにボランティアを募っています。スケジュールも融通が利くため、自分の都合で気軽に参加できるのが特長。保護者や地域住民に広く門戸を開き、参加のハードルを低くすることで、多くの人を呼び込む狙いがあります。「厚木の出身ではなかったこともあり、地域の取り組みに参加するきっかけにもなった」と振り返る竹花さん。学校が、保護者同士の情報交換の場や、子どもが地域住民と交流できる場にもなっています。

地域の一員へ

さらに、CSの活動を通して培われた子どもたちと地域住民のつながりは、学校外へと広がりを見せています。11月5日に相川公民館で開催された「第17回こどもまつり」。相川地区青少年健全育成会連絡協議会（以下青健連）や地域の大人たちと一緒にお祭りを実施したのは、相川地区の小・中学生でした。

特に活躍していたのは、相川中の生徒による有志ボランティアチーム「焼き芋隊」です。振る舞ったイモは、5月の作付けから除草作業、10月の収穫まで、青健連と協力しながら育ててきました。収穫時には祭りの焼き芋用とは別に、青健連が同時開催した地域住民向けの芋掘り大会もサポート。メンバーの岩崎るかさん（中学1年）は「地域の方から協力することの大切さを教えてもらった。自分だけではできないことも、皆と一緒ならできると分かった」と笑顔で話します。

中学生になると授業の専門性が高くなるため、保護者などによる学習支援の機会も少なくなります。一方で、地域での職業体験や防災訓練、催しへの参加など、校外での学習や活動は多くなります。相川地区青健連会長の山川忠規（ただのり）さん（47・酒井）は「さまざまな年代の大人と一緒に一つの催しを作り上げたり、活動したりする中で、生徒の中に地域の一員としての自覚が芽生えることがうれしい。大人も子どもたちと一緒に楽しんで祭りや催しに携わっているしね」と目を細めます。

市内全校をCSに

今まで、主に学校と行政の両輪で進めていた教育を、地域と保護者も加えた四輪駆動にすることで、教育力の向上を目指すCS。教職員の負担を軽減し子どもと向き合う時間を増やしたり、子どもが地域の一員として成長したり、より触れ合いあふれる地域になったりと、学校・子ども・地域それぞれに大きな効果をもたらしています。CSの普及・支援を担うCSマイスターの井上尚子さん（60）は「良い企画があっても、実際に担う人材がいなくては成り立たない。協力してくれる方ばかりではないので、学校づくりの楽しさややりがいを、いかに知ってもらえるかが成功の鍵」と訴えます。

市では今後、モデル校での検証結果を基に、全校をCSにしていくことを検討しています。各地域の特長を生かした仕組みづくりへ向け、市民の皆さんと力を合わせた取り組みを進めていきます。

他人事と思わずに積極的な参加を

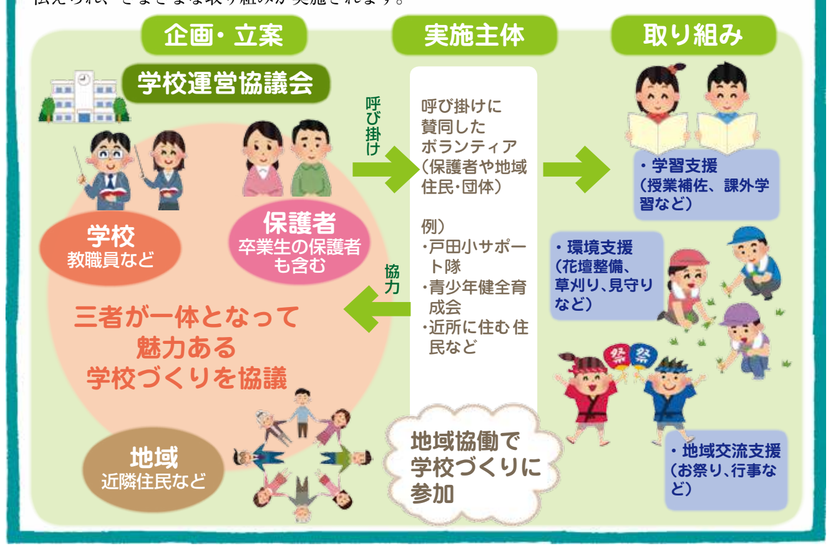
文部科学省初等中等教育局
コミュニティ・スクール推進員
CSマイスター　井上 尚子（なおこ）さん（60）

近頃の学校では、総合的な学習の時間という授業を毎週設けています。自ら課題を見つけ、考え、問題を解決する能力を育てる授業です。日々の授業はもちろん、こうした時間をより豊かなものにするには、経験豊富な大人たちの協力が欠かせません。地域の子どもは地域で育てるという意識を持ち、まずは子どもたちに関わろうとすることが大切です。

CSの取り組みが進むと、子どもたちは地域の大人の顔が分かるようになります。日常生活にお互いの存在が溶け込んでいき、大人は子どもにいろいろなことを教えたり、時には学校外で注意や指導をしたりできる関係になっていきます。

「時間がない」「自分にできるか心配」という方も安心してください。多くの場合、時間や内容は自分で選択できます。資格などは一切不要です。学校側も皆さんを温かく受け入れ、率直な評価や意見を求めてくださるでしょう。参加者同士での情報交換の場にもなり、有意義な時間を過ごすことができると思います。

CSの継続的な運用には、人材の確保が大きな課題です。子どもたちの豊かな成長を育むために、その一歩を踏み出してみましょう。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）とは

コミュニティ・スクールは、学校だけでなく、保護者や地域住民が協働して地域性を生かした学校運営を進めるための仕組みです。学校運営協議会で決めた方針が実施主体となるボランティアに伝えられ、さまざまな取り組みが実施されます。